

ブリヂストンの新規分野への取り組み分析レポート



Genspark

Jul 13, 2025

ブックマーク

共有

インスピレーションと洞察から生成されました [17 ソースから](#)

エグゼクティブサマリー

ブリヂストン [1](#) は、2020 年を「第三の創業」と位置づけ、2050 年にサステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供する企業への転換を目指している。本分析では、統合報告書、有価証券報告書、投資家向け説明会資料、知的財産戦略、そして特許分析を通じて、同社の新規分野への取り組みを多角的に検証した。

1. 公式に発表されている新規分野

1.1 探索事業（新たな種まき）

統合報告書 2024 [2](#) では、以下の 4 つの探索事業を明示している：

1.1.1 リサイクル事業

- 使用済タイヤの「戻す」技術による循環ビジネスモデル
- ENEOS 社との共同開発 [3](#) による精密熱分解技術で、タイヤ油分からブタジエン（合成ゴム原料）を高効率回収
- サーキュラーエコノミー実現に向けた水平リサイクルの確立

1.1.2 グアユール事業

- パラゴムノキ代替としての乾燥地栽培可能な天然ゴム生産
- 2030 年商業化を目指した事業投資強化 [4](#)
- 熱帯林減少問題の解決と天然ゴム調達の新規化

1.1.3 ソフトロボティクス事業

- ゴム人工筋肉（ラバーアクチュエーター）技術の応用
- 2024 年 11 月、新感覚体験「Morph inn」プロジェクトを開始 [5](#)

- 産業用・家庭用ロボット市場への展開を視野

1.1.4 AirFree® (エアフリー) 事業

- 空気充填不要の次世代タイヤ技術
- 2024年3月より公道実証実験を開始 [6](#)
- 宇宙探査応用も検討中

1.2 成長事業・戦略事業

1.2.1 モビリティテック事業 (戦略事業化)

- リアル×デジタルによる運行最適化ソリューション
- 欧州 Webfleet、北米 Azuga プラットフォームの活用
- タイヤデータとモビリティデータの融合による新価値創造

1.2.2 鉱山・航空ソリューション

- 中期事業計画 2024-2026 [7](#) で「良い種まき」として位置づけ
- 鉱山向けリアル×デジタルソリューション
- 航空機向けリトレッド含む包括サービス

1.2.3 DX・デジタル変革

- 生成 AI 能力を活用した工場スマート化 [8](#)
- データを中核とするリアル×デジタルプラットフォーム構築
- 「DX 銘柄 2024」選定企業としての取り組み強化

2. 経営トップの発言から推測される長期テーマ

2.1 石橋秀一 CEO の戦略構想

石橋秀一 CEO [9](#) は複数のインタビューで以下の長期テーマを示唆している：

2.1.1 人工筋肉技術の展開

- 「ゴムチューブを用いた人工筋肉は、小型軽量、高出力、高耐久性といったメリットがあり、産業用・家庭用ロボットへの展開が期待されています」
- ソフトロボティクス事業の本格事業化 [5](#) に向けた投資拡大

2.1.2 垂直方向のビジネス拡大

- 「第三の創業のステージでは、ソリューション事業を成長軌道に乗せ、垂直方向のビジネス拡大を目指します」
- リトレッド事業 (バンダグ社買収)、デジタルフリートソリューション (蘭社買収) 等の戦略的 M&A 継続

2.1.3 サステナブルなソリューションカンパニー化

- 2050年ビジョンに向けた根本的な事業モデル転換
- バリューチェーン全体でのサーキュラーエコノミー実現 [3](#)

3. 特許分析から推測される長期テーマ

3.1 特許ポートフォリオ分析による新規技術方向性

知的財産戦略 [10](#) と特許データ分析から以下の長期テーマが浮上している：

3.1.1 非空気入りタイヤ技術の深化

- 2023 年ゴム製品他社牽制力ランキング [11](#) で最多引用された技術が「部材や形状の選択の幅を広げられる非空気入りタイヤ」
- デザイン自由度と素材選択幅の拡大による差別化戦略
- 月面探査車用タイヤ第 2 世代開発との技術連携

3.1.2 グアユール関連技術の商業化準備

- 特許第 7650359 号 [12](#) 「グアユール樹脂の抽出」で革新的分離技術を確立
- 連続向流抽出と溶媒極性変化による高効率成分回収技術
- 医薬前駆体（アルゲンタチン）、香料原料（グアユリン）等の副産物事業化も視野

3.1.3 ソフトロボティクス特許戦略

- 2019 年頃から関連特許出願を本格化 [13](#)
- WO2023119808A1 「把持装置」 [14](#) で空気圧制御による精密把持技術を確立
- 医療、食品製造、農業分野での応用展開を想定

3.1.4 MaaS 分野での地域別戦略

- IP ランドスケープ分析 [15](#) により、米国では配送・運転支援、日欧では充電施設・駐車場等インフラ技術に特許出願を集中
- 地域特性に応じた差別化戦略の展開

3.1.5 産業用材料への展開

- コンベアベルト用ゴム組成物で競合他社特許を多数引用 [11](#)
- タイヤ技術の産業用途への水平展開戦略

3.2 未発表の特許から推測される将来方向性

3.2.1 自動運転技術分野への参入

- 知的財産戦略 [10](#) で「当社にとっても、新たな技術分野である自動運転の技術・ノウハウをタイヤ/ソリューション開発に活かす」と明記
- タイヤ基本性能の重要因子に関する新たな知見獲得

3.2.2 宇宙探査応用技術

- AirFree®技術の宇宙探査応用研究
- 極限環境でのタイヤ性能要求への対応技術開発

4. 戦略的含意と今後の展望

4.1 新規分野の事業化時期予測

短期（2025-2027年）

- モビリティテック事業の戦略事業化完了
- AirFree®の限定商業化開始
- ソフトロボティクス事業の本格事業化

中期（2028-2030年）

- グアユール由来天然ゴムの商業生産開始
- 精密熱分解リサイクル事業の本格展開
- 鉱山・航空ソリューションの収益化

長期（2031年以降）

- 宇宙探査応用技術の実用化
- 人工筋肉技術の家庭用ロボット市場参入
- 完全循環型ビジネスモデルの確立

4.2 特許戦略の特徴と優位性

ブリヂストンの「攻めまくる」知財戦略 [16](#) は、従来の守りの特許取得ではなく、事業成長のレバレッジとして知財を位置づけている。特に以下の点で競合優位を確立：

1. **知財ミックス戦略:** 特許、商標、営業秘密等を戦略的に組み合わせた総合的保護
2. **IP ランドスケープ活用:** 業界動向の先読みと自社ポジショニングの最適化
3. **バリューチェーン全体の知財可視化:** 上流から下流まで一貫した知財戦略

4.3 投資優先度の分析

過去 20 年累積で R&D 費と発明人材の両面でフロンティア群投資 [17](#) を継続している同社において、新規分野への投資優先度は以下と推測される：

最優先: モビリティテック、リサイクル事業 **高優先:** AirFree®、ソフトロボティクス **中優先:** グアユール、鉱山・航空ソリューション **長期優先:** 宇宙探査応用、完全循環型モデル

5. 結論

ブリヂストンは、タイヤ事業で培った技術力を基盤として、サステナビリティ、デジタル変革、新素材開発の 3 軸で新規分野への展開を加速している。特に注目すべきは、公式発表されている探索事業と、特許分析から見える未発表の技術開発の間に高い整合性があることである。

石橋秀一 CEO が描く「第三の創業」というビジョンのもと、2030 年売上収益 5 兆円目標に向けて、コア事業の強化と並行して新規分野での「良い種まき」が着実に進行している。特許戦略においても、単なる技術保護ではなく事業価値創造のレバレッジとして活用する

「攻めの知財投資」により、競合他社に対する優位性を確立している。
今後は、これらの新規分野の事業化進展と、それに伴う同社の企業価値向上が期待される。
特に、サーキュラーエコノミーの実現とソリューション事業の拡大は、従来のタイヤメーカーとしての枠を超えた新たな価値創造企業への転換を示唆している。

1
www.bridgestone.co.jp

2
www.bridgestone.co.jp

3
www.bridgestone.co.jp

4
www.nikkei.com

5
www.bridgestone.co.jp

6
www.bridgestone.co.jp

7
www.bridgestone.co.jp

8
www.bridgestone.co.jp

9
adv.asahi.com

10
www.bridgestone.co.jp

11

www.patentresult.co.jp

12

ipforce.jp

13

www.techno-producer.com

14

patents.google.com

15

yoroziipsc.com

16

www.sbbit.jp

17

www.kantei.go.jp